

北京日本学研究中心

通 讯

《第十八号》

责任编辑：山下纪久枝 谯燕 邮政编码：100081 Tel: 8422277--584 1992.3.15

◇ 简 讯 ◇

☆新学期伊始，“中心”日方新专家陆续到任。在此，我们对期满归国和继续留任的各位专家表示衷心的感谢，并对新到任的专家表示热烈的欢迎。本学期新到任专家的名单见另页。

☆为期3天的第5次硕士学位论文答辩于1月10日结束，报名者14名全部通过答辩，但也存在着一些问题。

☆1月中旬，“中心”出版了『日本学研究 I』『日本学论丛 II』『中国日本学年鉴』3本书。

☆2月15日~17日3天，在全国各地举行了第8期(92级)硕士研究生入学考试。应考者88名。另两名推荐生于1月13日考了笔试和口试，本中心判定考试合格。

☆从3月2日(星期一)上午8点开始，“中心”在3层电教室举行了新学期师生见面会，此后，开始上课。

☆3月19日(星期四)下午2点开始，在“中心”一层阶梯教室，举行本学期第一次公开讲座(有末贤先生;『现代日本社会和「超·近代(post·modern)」状况』)。本学期公开讲座的题目，请参照「日方派遣教授一览」(日语版)。

☆3月21日(星期六)，“中心”第6期研究生(90级)访日。访日研究期间为6个月。在此期间完成论文，并将其复印件提交指导教师，接受导师的最后指导和听取有关追加必读文献等的指示。

☆3月27日(星期五)举行第5期硕士研究生(89级)的毕业典礼。

☆本学期的客座教授、客座研究员自我介绍，请参照另页。

◎ 第 2 期 攻读博士课程候选人确定 ◎

第2期攻读博士课程候选人已定。预定1992年4月访日，先作为研修生学习一年，然后参加各大学的博士课程入学考试。候选人名单如下。据悉，第1期博士课程候选人4名(漆红、郭连友、李国庆、林翠芳)全部通过博士课程入学考试。

姓 名 (工作单位)	专 业	指导教师	(接收大学)
于日平 (北京外语学院讲师)	日本语学	北原保雄教授	(筑波大学文艺言语学系)
张麟声 (山西大学讲师)	日本语学	仁田义雄教授	(大阪大学文学部)
张景翔 (北京外语学院讲师)	日本美术史	辻 惟雄教授	(东京大学文学部)
美国华 (江南大学讲师)	日本文学 (中世)	梶原正昭教授	(早稻田大学教育学部)

§ 自 我 介 绍 §

(本学期客座教授、客座研究员自我介绍)

- ◎刘德有：客座教授。文化部副部长，担任〈中日关系特别研究〉课程。
(请参照《通讯》第十四号介绍一栏)
- ◎刘耀武：客座教授。黑龙江大学教授，担任〈一般语言学〉课程。
(请参照《通讯》第十、第十一号合并号自我介绍一栏)
- ◎刘晓方：客座研究员。中央财政金融学院讲师，研究方向为日本文学。
(请参照《通讯》第十四号自我介绍一栏)
- ◎翟东娜：客座研究员。北京师范大学讲师，研究方向为日本语学。
(请参照《通讯》第十四号自我介绍一栏)
- ◎周敏西：客座研究员。湘潭大学讲师，研究方向为日本语学。
1963年出生于湖南省汨罗市。1983年毕业于湘潭大学日语专业。1987年作为中心第一期学生毕业于语言文学专业，文学硕士。专攻日本语言文化，已发表有关论文6篇。能得到客座研究员的机会，非常高兴，一定发奋努力，做出成绩。
- ◎孙中元：客座研究员。沈阳冶金机械专科学校讲师，研究方向为日本文学。
1955年生于辽宁省沈阳市。“中心”90级教师进修班学员。1979年辽宁大学毕业。研究题目为“中日传统故事的比较研究”。
- ◎申 健：客座研究员。中国中日关系史研究会中级编辑记者，研究方向为日本社会。
1963年出生于山东省，1984年毕业于山东大学外文系日语专业，获学士学位；1987年毕业于山东大学历史系日本近代文化史专业，获历史学硕士学位；同年9月至今，就职于北京日报社日文部，承担翻译、记者工作，同时兼任中日关系史协会编辑。发表的主要论文有《论日本明治初期的文明开化政策》等。
- ◎袁 方：客座研究员。中国人民大学哲学系博士研究生，研究方向为日本社会。
1965年生，安徽籍。1987年毕业于清华大学环境工程系和社会科学系，获工学士和法学士学位。同年考入中国人民大学社会学所研究社会心理学，1990年毕业，获硕士学位。现为中国人民大学哲学系伦理学专业博士研究生。
- ◎李庆祥：客座研究员。山东大学外文系副教授，研究方向为日本语学。
1953年生于山东省蒙阴县。1975年毕业于山东大学外文系日语专业。1980年参加第一期“大平班”学习。1985年8月至1986年8月于日本山口大学进修。研究方向为日语词汇学、中日词汇比较。主要论文及著、译作有：《日语中表示否定意义的接头词》，《日语的叠语》，《中外名著百科辞典》等。
- ◎周维宏：客座研究员。北京日本学研究中心讲师，研究方向为日本社会。
(请参照《通讯》第七号)



(通 訊 ・ 日 本 語 版)

ニ ュ ー ス

- ☆新学期が始まり、センター日本側の新しい先生方が着任された。この紙面を借りて、任期を終えて帰国された先生方ならびに引き続き在職中の先生方にお礼を申しあげるとともに、新しく着任された先生方に歓迎の意を表したい。今学期の先生方については「日本側派遣教授一覧」をご参照いただきたい。
- ☆3日間にわたる第5回学位審査・口述試問（答弁）は1月10日に終わり、学位審査申請者14名は、若干の問題はあったが、全員合格した。
- ☆1月中旬、『日本学研究1』『日本学論叢Ⅱ（大学院碩士論文選集）』『中国日本学年鑑（1949—1990）』が刊行された。
- ☆2月15日～17日の3日間にわたって、全国各地で、第8期（92級）大学院修士課程の入学試験が行われた。受験者数は88名であった。また、今回は、規定による推薦入試者が2名おり、1月13日に筆記試験、口述試験が行われ、本センターでは合格とした。
- ☆3月2日（月）午前8時から3階電教室において対面式が行われ、その後、新学期の授業が始められた。
- ☆3月19日（木）午後2時から、センター1階階段教室において、今学期の第1回目の公開講座（有末賢先生；現代日本社会と「ポスト・モダン」状況）が開かれる。今学期の公開講座題目については「日本側派遣教授一覧」をご参照いただきたい。
- ☆3月21日（土）、大学院修士課程・第6期生（90級）が訪日する。訪日研究期間は6か月で、この期間内に論文原稿を完成させ、そのコピーを指導教官に提出し、最終指導・追加必読文献等の指示を受けることになっている。
- ☆3月27日（金）、大学院修士課程・第5期生（89級）の卒業式が行われる。
- ☆今学期の客員教授・客員研究員については、本通迅の第1面（中国語版）参照のこと。

第 2 期 大 学 院 博 士 課 程 進 学 候 補 者 決 定

第2期大学院博士課程進学候補者は、以下の4名に決定された。1992年4月に訪日し、1年間研究生として在学した後、博士課程入学試験を受けることになっている。なお、第1期候補者4名（郭連友、李国慶、漆紅、林翠芳）は、全員、入学試験に合格した。

氏 名（ 現 職 ）	： 専攻	受入指導教官（受入先大学）
于日平（北京外国語学院講師）	： 日本語学	北原保雄教授（筑波大学文芸言語学系）
張麟声（山西大学講師）	： 日本語学	仁田義雄教授（大阪大学文学部）
張景翔（北京外国語学院講師）	： 日本美術史	辻 惟雄教授（東京大学文学部）
羌国华（江南大学講師）	： 日本文学（中世）	梶原正昭教授（早稲田大学教育学部）

1992年3月～7月日本側派遣教授一覧

氏名	現職	担当科目	公開講座題目
佐藤保 (主任教授)	お茶の水女子大学教授 ～1992年4月30日)	日中文学・文化比較研究	91年春学期に講演済
池田温 (主任教授)	前東京大学教授 1992年4月20日～)	日中文学・文化比較研究	古代日本の唐律令継承をめぐって 仮名文の歴史
秋本守英	龍谷大学文学部教授	日本語学特殊研究Ⅱ 日本語学演習 日本語学各論	
有末賢	慶応義塾大学法学部助教授	社会学 社会学演習	現代日本社会と「ポスト・モダン」状況 鏡の目——古代日本と中国
犬飼公之	宮城学院女子短期大学教授	日本古典文学 日本古典文学演習	
今井雅晴	茨城大学人文学部教授	日本文学論(古典) 文化史 文化史演習	日本中世の家族関係
浦部法穂	神戸大学法学部教授	日本文化・思想史 日本経済・法制(法制)	日本国憲法における 平和主義の意義 中国のギャンブルゲーム
大谷通順 (主任教授補佐)	北海学園大学教養部助教授 1992年3月25日～)	日中言語比較論	
角田敏郎 (言語・文学専修副主任)	大阪教育大学教育学部教授	日本近・現代史	日本近代詩の草創期
鹿野政直 (社会・文化専修副主任)	早稲田大学文学部教授	思想史 思想史演習	
向後紀代美	立教大学他非常勤講師	日本文化・思想史 日本地理風土論	真珠が結ぶ中国、日本そして中東 格助詞について
鈴木英夫	茨城大学人文学部教授	日本語学研究Ⅰ(B) 日本語学演習Ⅰ(B)	
原土洋 (研修コース副主任)	東北大学教養部教授	日本語学概論 音声音韻論	「日本事情」とその必要
古田東朔	鶴見大学文学部教授	日本語学研究Ⅰ(A) 日本語学演習Ⅰ(A)	標準語の形成
森雅雄	(財)民族学振興会研究員 専修大学他非常勤講師	社会文化論 社会文化論演習	少女漫画『ホットロード』を読む
山下紀久枝 (研修コース副主任補佐)	国際交流基金 日本語教育専門家	論文選読 文章表現研究	90年秋学期に講演済
山田眞一 (主任教授補佐)	高岡短期大学講師 ～1992年3月30日)		91年春学期に講演済
篠崎信夫 (事務主任)	国際交流基金嘱託		

*

*

*

〔追記〕「通説・日本語版」第12号(91.6.15)から、カットを書いてくださった山田従子氏(山田眞一先生夫人)は3月末にご帰国の予定。今月号が最後となります。昨年12月ご長男誕生というお忙しい時期に、毎号、季節感あふれるかわいいカットを書いていただき、本当にありがとうございました。♡♡♡